

令和5年度シラバス(芸術)

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材
芸術(書道Ⅰ)	2単位	1学年(選択)	教育出版『書道Ⅰ』	

1 学習目標

書道の幅広い活動をとおり、書に関する見方・考え方をはたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
① 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。(「知識及び技能」の習得)	② 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。(「思考力、判断力、表現力」の育成)	③ 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおり心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(「学びに向かう力、人間性等」の涵養)

2 指導の重点

漢字の書の学習、仮名の書の学習、漢字仮名交じりの書の学習、それぞれ書体・書風による表現の違いを理解させ、自己の表現能力を高め、それらを創作にいかしていく。

3 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	以上の観点を踏まえ、 ・学習活動への参加状況や態度 ・学習成果(提出作品) などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習活動への参加状況や態度 ・学習成果(提出作品) などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習活動への参加状況や態度 ・学習成果(提出作品) などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	学習目標	評価の観点	時間	評価方法
4	書的美を求めて 書の世界へようこそ	書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握する。			
	用具・用材 -文房四宝- 姿勢・執筆 古典の学び方 書を生活の中に生かしてみよう	・姿勢・執筆や用具・用材について理解し、書の学習方法を把握する。 ・臨書の種類を知り、その意義を確認する。 ・做書の方法を習得し、作品制作への展開の可能性を理解する。 ・生活の中の書を再認識し、その意義や効果を考える。	a a a b	2	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)
	一 漢字の学習				
	書体の変遷 拓本と碑について	・漢字の五書体の歴史的変遷について理解する。 ・拓本の採り方やその様式について理解する。	a a	1	学習活動への参加状況や態度
5 6	一 楷書の学習				
	1 さまざまな楷書	・毛筆による書表現の多様性を理解し、これを積極的に鑑賞する態度を身に付ける。 ・唐の四大家の概要を知り、作品の比較をとおしてそれぞれの美を感得する。	a b	2 2	学習活動への参加状況や態度
	2 唐の四大家				
	九成宮醴泉銘/孔子廟堂碑 雁塔聖教序/顔氏家廟碑	・九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑を題材として、臨書による古典学習の方法を習得する。 ・両古典の比較をとおしてそれぞれの特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。 ・雁塔聖教序と顔氏家廟碑を題材として、臨書による古典学習の方法を習得する。 ・両古典の比較をとおしてそれぞれの特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。	a a a a	4 4	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)
7 8 9	二 行書の学習				
	1 さまざまな行書 行書の特徴	・行書の表現の多様性にふれ、行書の成立について、正しく理解する。 ・行書の特徴を知り、行書が芸術の書、実用の書の両方で広く用いられていることを理解する。	a a	1	学習活動への参加状況や態度
	2 王羲氏と顔真卿の行書 蘭亭序	・蘭亭序の鑑賞と臨書をとおり、行書の基本的な表現技法を習得する。 ・規範となる行書を生み出した王羲之の書道史上の重要性を理解する。	a a	1 2	学習成果 (提出作品)
	祭姪稿 3 日本の行書 風信帖 三筆、三跡の書 身の回りに見られるさまざまな書	・祭姪稿の鑑賞と臨書をとおり、王羲之と併称される顔真卿の行書の流暢かつ重厚な表現技法を習得する。 ・風信帖の鑑賞と臨書をとおり平安時代初期の書が、当時の中国の影響を強く受けていることを理解する。 ・風信帖の変化に富み、格調の高い技法を学ぶ。 ・三筆、三跡の書の美に関心をもち、相互の比較をとおしてそのよさや美しさ、歴史的背景について学ぶ。 ・生活の中の書を再認識し、その意義や効果を考える。	a a a a	2	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)
10	三 篆書の学習				
	篆書(小篆)の特徴 泰山刻石	・基礎的な篆書の学習により、篆書の特徴を理解し、用筆・運筆結構法を習得して表現力を高める。 ・泰山刻石を臨書することにより、小篆の筆使いの特徴を理解する。	b a	2	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)
	四 篆刻の学習				
	1 篆刻の学習 いろいろな印 落款について 篆刻の用具・用材 姓名印と文字の配列 印稿の例 刻る手順 2 刻字の学習 書と刻字 刻字の用具・用材と手順	・篆刻の歴史を知り鑑賞することにより、そのよさや美しさを感じ、自分の制作する印に工夫を加える。 ・完成までの手順と技法を習得する。 ・刻字の手順と技法を習得する。	b a a	1 2 1	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品) 学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)

11	五 隸書の学習	隸書の特徴 曹全碑/居延漢簡	・基礎的な隸書の学習により、隸書の特徴を理解し、用筆・運筆、結構法を習得して表現力を高める。 ・隸書に興味や関心を持ち、歴史的な位置づけを理解し、表現方法を高め、今後の生活に生かす能力を身につける。	a b	4	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)
	六 草書の学習	草書の特徴 書譜	・基本的な草書を学習することにより、草書の特徴を理解する。 ・書譜を臨書することにより、草書の筆使いの特徴を理解する。	a a	2	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)
		漢字の書の制作 漢字の書の鑑賞 身のまわりの書	・楷書・行書の制作をととして、表現の構想から完成に至る過程を工夫し、主体的に自己表現を図る態度を育成する。 ・主体的・意欲的に作品を制作し、表現力を身につける。 ・楷書・行書の作品を鑑賞することにより、表現を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わう能力を伸ばす。 ・書を鑑賞することにより多様な美を理解し、鑑賞力を深め、書を愛好する心情を育む。 ・書が生活の中で果たしている役割を知り、書の効用を理解する。	c c b b b	2 2 1	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)
二 仮名の書の学習						
12 1		1 仮名の世界へようこそ 仮名の成立と発達 仮名の種類 姿勢・執筆 用具・用材とその扱い方 基本的な筆使い 平仮名	・仮名の成立過程、及び仮名の種類について理解する。 ・用具・用材、姿勢、執筆法などの基本的事項を身につける。 ・仮名の基本的な線質と、用筆・運筆との関係を理解する。 ・仮名の基本的な筆遣いを身につける。	a a a a	2	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)
		変体仮名	・いろは歌について理解する。 ・単体の基本的な造形の特徴を理解し、その美を感得する。 ・仮名の運筆のリズムに注意して、いろは歌を練習する。 ・変体仮名に関心を持ち、理解を深める。 ・仮名の書における変体仮名の効用を理解する。	a b c a	2	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)
		連綿	・連綿によって表現される流動美について理解する。 ・連綿について理解し、その技法を身につける。	a a	2	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)
		2 蓬萊切の鑑賞と臨書	・古典の学習により仮名の技法を身につけ、表現を工夫する。	b	2	学習活動への参加状況や態度
		3 高野切第三種の鑑賞と臨書	・名筆をととして日本の伝統的な書の美を感じる。	b	2	学習活動への参加状況や態度
		4 三色紙の鑑賞と散らし書き	・基本的な造形原理を身につけ、創造的な表現につなげる。			
		5 仮名の書の制作 6 全体構成の工夫 7 大字による表現と鑑賞	・仮名の書の技法を生かし、自己を表現する喜びを味わう。	b	2	学習成果 (提出作品)
三 漢字仮名交じりの書の学習						
2 3		1 言葉を表現する	・漢字と仮名の調和の重要性を確認し、そのための工夫について考えることができる。	b	1	学習活動への参加状況や態度
		2 感動や思いを表現しよう	・文字の大きさ、字形、配置、書体などを工夫し、表現を試みる。 ・明確な制作意図をもち、主体的・意欲的に表現を行う。	c	1	学習成果 (提出作品)
		名筆に学ぶ表現の工夫 用具・用材の工夫 全体構成の工夫	・名筆の学習を応用して、漢字と仮名を調和させながら、ねらいにそった表現ができる。 ・用具・用材と表現効果が密接に関係していることを理解し、表現を工夫できる。 ・用具・運筆の違いによる多様な線質を理解し、表現を工夫できる。	b b b	1 1 2	学習活動への参加状況や態度
		作品の完成(鑑賞会を行う)	・言語と表現の関わり方、表現の意図や工夫の方法を味わう。 ・線質や構成の違いによる個性的な表現を味わう。 ・筆者の生きた時代や文化など、作品の背景などを推察して深く味わう。	b b	2	学習成果 (提出作品)
3 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	・漢字仮名交じり文の成立と歴史の変遷について理解する。	a	2	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)		
		漢字仮名交じりの文の成立とその書の変遷	・手書き文字による手紙のよさについて考え、伝統的な書式を生かして整正に配置良く書くことができる。 ・さまざまな用具・用材と、表現との関わりについて理解し、目的に応じた効果的な表現ができる。	a b	2	学習活動への参加状況や態度 学習成果 (提出作品)

計64時間(55分授業)

6 課題・提出物等

毎時間授業時に学習した課題を清書し、提出する。

7 担当者からの一言

・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。1年間の学習をととしての進歩が感じられるような学習への取り組みをしてください。
・一人一人の個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。練習する古典や題材とする語句などについて、自分を最高に生かせる選択をしていきたいものです。
・「書道Ⅰ」の学習をととして、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいと思います。

(担当:関 加代子)